第5号

中丹 農業改良普及センターだより

「砂丘畑の復活をめざして」

ボランティアと地元住民

6月10日には除草剤散布とチップ化作業を行いました。

農のあるライフスタイルプロジェクト

舞鶴市東神崎地区は、海水浴場として有名ですが、不耕作地にニセアカシアというマメ科の木が繁殖しています。

そこで、耕作可能な農地に戻そうと、都市に住み、田舎暮らしに興味のあるボランティアとともに、ニセアカシアの伐採作業を５月12日に行いました。農地に戻るまであと１～２年はかかる予定です。（砂丘畑として復活すれば、カンショ、ラッカセイの作付に最適な農地になります。）

今後も引き続き、都市住民と地元の方の交流を深め、新規定住者を受け入れる条件づくりを進めます。

京都府中丹広域振興局農林商工部

◆発　行◆
2007（平成19年）7月

中丹西（にし）農業改良普及センター
〒620-0055　福知山市篠尾新町1-91
TEL 0773-22-4901
e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

中丹東（ひがし）農業改良普及センター
〒623-0012　綾部市川糸町丁畠10－2
TEL 0773-42-2255
e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

”築いていこう　差別のない　明るい社会”

中丹地域農業のパワーアップのために!!

普及センターでは、重点課題に対してプロジェクトチームを組織し、多様な技術・ノウハウ等の普及活動を行います。

土地利用型作物の産地づくりプロジェクト

◆課題名：小豆を柱とした輪作体系導入による経営強化と特色ある米づくりの推進

地域の効率的な生産体制の仕組みづくりを進めるため、これまで水稲の打ち込み式直播、小豆の機械化を支援してきました。今後は経営的視点を取り入れて、「小豆」と「米づくり」を両輪とした集落型営農組織の経営確立を支援します。

＜小豆省力機械化栽培の確立＞

コンバイン収穫を前提とした栽培体系において収量向上を図るため、生育量の確保、刈り取り時の損失と汚粒発生の軽減、乾燥方法など必要な技術を補強します。

＜特別栽培米生産の支援＞

ＪＡと連携して、特別栽培米の生産・出荷体制の整備をすすめます。また、営農組織に対し、この取組に参加するよう誘導を図ります。

ブランド産地の組織強化プロジェクト

◆課題名：ブランド京野菜の産地拡大

万願寺とうがらし、紫ずきんなどの京野菜を栽培する地域が拡大する中で、「安定栽培技術の定着と新品種導入への技術支援」や「産地拡大に向けた担い手確保の支援」を通じて、京野菜生産組織の強化に取り組んでいきます。

○万願寺とうがらしの辛味がほとんどない新品種「京都万願寺１号」の特性に合った栽培技術の定着に向けて栽培講習会等を行います。

○紫ずきんの安定生産技術の普及と極早生新品種「紫ずきん２号」の定着に向けて、栽培講習会、現地実証等を行います。

○企業等と連携し、定年退職予定で就農の意向のある方を対象に、「京野菜新規栽培セミナー」を開催し、スムーズな就農を支援していきます。

「宇治茶」の産地づくりプロジェクト

◆課題名： 次世代を見据えた両丹茶の生産基盤の確立

宇治茶の増産が強く求められる中で、中丹地域でも荒茶生産量の増大を目指し、生産基盤の強化を図ってきました。

過去3箇年（平成16～18年度）の取組では、新植による茶園面積の拡大や、担い手の育成について、重点的に取り組んできました。

今後3箇年（平成19～21年度）については、次世代を見据えた特色ある産地としての地位を不動のものとするため、今日までの取組をさらに加速するとともに、新たに以下の二点についても重点的に取り組んでいきます。

・京都府独自の品種として新たに品種登録された、「鳳春（ほうしゅん）」「展茗（てんみょう）」の苗木生産体制の確立と、新植計画に合わせた植栽面積の拡大。

・緩効性肥料の活用等、特に施肥量に着目した環境にやさしい栽培手法の確立と普及。

新たに茶業に参入した担い手による交流会の実施(H19.1)

安心・安全で環境に配慮した生産技術の普及定着プロジェクト

◆課題名：京野菜等の減農薬、減化学肥料栽培技術の普及・定着

万願寺とうがらし、みず菜、紫ずきんの減農薬、減化学肥料にこだわった栽培技術を確立・普及させるための活動を進めています。

＜万願寺とうがらし＞

天敵を利用した害虫防除技術について、技術伝達拠点となる農家を育成し、技術の普及定着を目指します。

＜紫ずきん＞

堆肥（牛糞）、発酵鶏糞利用による減化学肥料技術の普及性を検討します。

＜みず菜＞

キスジノミハムシの減農薬防除技術として、黄色粘着テープ、防草シート、太陽熱消毒、エン麦のすき込みの普及性を検討します。

みず菜の防虫テープ▶
（黄色粘着テープの設置）

▲万願寺とうがらし天敵防除現地講習会

担い手の確保・育成プロジェクト

◆課題名：新規就農者の確保・育成と担い手農家の経営支援

中丹では後継者不足から集落の農地保全が困難になりつつあります。しかし一方で、新規就農希望は京都府全体で毎年600件程度の相談があり、中丹でもここ５年で新規就農を支援する制度を利用して研修、就農した者が20名あります。

今後も新規就農者を円滑に定着させるため、中丹地域の242の認定農業者に新規就農への支援を依頼し、地域で担い手を育ててもらう環境を整えていきます。

また、認定農業者は地域農業のモデルとしてさらなる経営の向上を目指す必要があります。高度で複雑な経営環境に対応し、家族全員が意欲とやりがいを持って経営に参画できるように、家族経営協定を推進していきます。

地産地消の推進プロジェクト

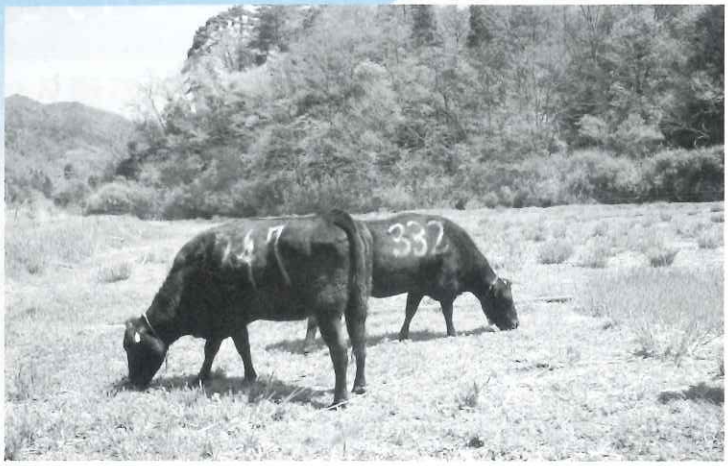
◆課題名：生産者と消費者が共に取り組む地産地消活動の推進

京都府は、地産地消の輪を広げる一環として「いただきます　地元産」プランにより、「朝市・直売所」「ふるさと加工食品」の取組を推進します。

中丹地域においても、各地に直売所が開設され、地元農産物やこれらを利用した加工品を提供しています。

普及センターでは、より多くの消費者が地元農産物を購入できるように、直売所間の連携による量販店での販売や、都会への贈り物セット品づくり、さらに地域の資源を活用したふるさとの香り豊かな加工品づくりや、健康を考えた弁当づくりが実現できるように支援します。

新たな野生動物対策として3市でバッファーゾーン設置



野生動物被害が増加する中、その対策の新しい取組として、イノシシ、シカ、サルのすみかとなる荒廃農林地を整備し、人と野生動物の棲み分けを行う緩衝地帯（バッファーゾーン）の設置が注目されています。

人と野生鳥獣の共生の森づくり事業を活用し、18年度は綾部市鍛冶屋町（2.6ha）で、19年度は舞鶴市西屋・河辺中地区（2.7ha）、福知山市夜久野町板生地区（3.6ha）で設置されています。綾部市と舞鶴市では、継続的に農地を管理するため、牛が２頭ずつ放牧され、地元ではバッファーゾーンの効果に期待を寄せています。

菊田哲夫さん（福知山市牧）が土づくりの「農の匠」に認定されました

農の匠認定者の菊田さん

菊田さんは、施設野菜を始めた25年前から、継続的に自家製堆肥を投入したトマトづくりを実践されています。始めの５年間位はトマトの青枯病が発生しましたが、その後は実生栽培でも青枯病は皆無です。

堆肥づくりの主材料は籾殻で、それに鶏糞と発酵剤を混入して、夏場の半年間で３～４回切り返して完熟堆肥にしています。

現在はエコファーマーですが、目標はＪＡＳの有機認証取得です。

＊京都府では、長年の経験により培われた優れた技能を保持する方を「京都府農山漁村高齢者技能登録・認定制度」により認定し、特に貴重な技術保持者を「匠」として認定しています。

水稲の出穂・成熟期はいつ？

水稲の出穂期と成熟期をインターネット上で予測できるようになりました。追肥・防除・収穫作業の目安として、是非活用して下さい。

【システムの使い方】

①下記のサイトにアクセスします。
（http://www.tekisaku.jp/ricediag/）

②予測する条件（府県、品種、田植え日、田植え時葉齢、地点）を選択・入力します。

③実行ボタンをクリックすると、出穂期と成熟期が表示されます。

なお、本システムは、近畿中国四国農業研究センター等が共同開発したもので、府農業総合研究所においても実用性を確認済みです。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています